

科目名	大阪の知—グローバル視野 と最先端から見る大阪— (学長特命科目)	単位数	2	授業 形態	講義	担当 教員	井上 徹 (副学長) 嘉名 光市(工) 他
英語表記	Special Lectures on Osaka: Global & Frontier Perspectives						

● 科目の主題

国際的な競争の激化、企業のグローバル化など、日本を取り巻く社会情勢は国際化に向けて大きく変貌を遂げており、グローバルに活躍する人間へのニーズが一層高まっています。また、ハード・ソフト等諸分野のイノベーションはそのスピードが増し、常に最先端の取り組みが求められており、時代を先取りし柔軟に適應できる能力も求められています。

公立大学である本学にはこうした潮流のなかで、大阪という地域の地域社会にアイデンティティを抱きながら、世界を舞台に最先端で活躍できる人材の育成が求められています。そこで、グローバル視野と最先端から大阪という地域を捉えられるような授業を開講し、それを機として、学ぶ意欲を高め、国際化に対応し、最先端を自ら拓く学生を育成したいと考えます。

授業の提供に際しては、世界で活躍する社会人、国内外に誇る教育研究成果を上げている市大の教員を講師として、グローバルと最先端をキーワードに、大阪との繋がりを念頭に置いて、授業を開いていただきます。受講生の皆さんには、授業を通じて、最先端の国際情勢、経済社会状況、テクノロジー、文化などを学んで、知的刺激を得るなかで、大阪という地域をより深く理解し、現代社会における生き方の指針を見つけていただきたいと思います。

● 授業の到達目標

- ・全世界に急速に広がりつつあるグローバル化と諸分野の最先端の動向を知ること。
- ・グローバル化とイノベーションのなかでの大阪の現状と未来を考えるきっかけとすること。
- ・専門を越えた幅広い知識を身につけること。

・在学中だけでなく、卒業後も見据えて、どのような職業に就き、いかに生きていくかを考える手がかりとすること。

● 授業内容・授業計画

グローバルな活動を展開している社会人、優れた教育研究成果を上げている本学教員がオムニバス形式で授業を担当します。大阪を中心として、国際的な企業活動、健康・医療、都市づくり、スポーツ、文化などの多方面の現場からの報告・分析、国際水準の教育研究成果を聞き、意見を交換するなかで、大学で学ぶ意味、実社会に接続するそれぞれの進路、大阪の未来を考えてもらいます。

- ① ガイダンス：嘉名光市(工学研究科)
- ② 熱き挑戦者であれ：相良暁 (小野薬品工業株式会社 代表取締役社長)
- ③ アジアのハブ—大阪：植田健三 (関西経済連合会 理事 国際部長)
- ④ 日本の医療が世界に発展するために必要なこと：大畑健治 (医学研究科)
- ⑤ どうすれば夢が描け、どうすれば叶えることができるのか：荒川哲男 (学長)
- ⑥ 新事業の構築 エアバッグインフレーター用ガス発生剤と私：高部昭久 (株式会社ダイセル 研究開発本部 執行役員 本部長)
- ⑦ 少子高齢化に対応した住まいと環境：加茂みどり (大阪ガス株式会社 エネルギー・文化研究所 研究員)
- ⑧ アシックスのグローバル戦略：尾山基 (株式会社アシックス CEO)
- ⑨ 人との出会が人路を変える：青木豊彦 (学長特別顧問 株式会社アオキ 会長)
- ⑩ テーマ未定：柳本晶一 (学長特別顧問 一般)

社団法人アスリートネットワーク 理事長)

- ⑪ オーロラ研究・その幅広い魅力：南繁行（複合先端研究機構）
- ⑫ これからの自治体と公務員～プロモーションの視点から：浦部喜行（堺市市長公室広報部 シティプロモーション担当課長）
- ⑬ 大阪のまちづくり・都市づくり：田中清剛（大阪市 副市長）
- ⑭ 女性の視点のベンチャービジネス～働くお母さんにやさしい社会をめざして：上田理恵子（株式会社マザーネット 代表取締役社長）
- ⑮ まとめ+期末レポート：嘉名光市（工学研究科）

● 事前・事後学習の内容

各回の授業内容をうけたあと、関連資料等を読み、配布資料やノートを用い復習する。また、毎回の予習として、自身の将来像やキャリアプランを見据え自分が取り組むテーマを設定すること。

● 評価方法

- ① 最初の授業のガイダンスで本授業の主旨を説明します。それを聞いたうえで、それぞれの進路、グローバル化、大阪の特色をミニ・レポートにまとめてもらいます。
- ② 2回目以降の授業で、その日の授業の要点をまとめ、それをもとに考えたことをコミュニケーションカードに記載し、提出します。
- ③ 第1回ガイダンスの時点での自分自身の考えを念頭に置きながら、それぞれの進路、グローバル化、大阪の未来像などをキーワード

として、それまでの授業で学んだことを踏まえて期末レポートにまとめ、最後の授業で提出してもらいます。

成績評価は①から③によって行います。期末レポートの提出は必須です。評価の配点比率は①と③で 40%、②で 60%とします。試験は行いません。なお、欠席や遅刻をしないように注意してください。

● 受講生へのコメント

この授業は、グローバル化と最先端のイノベーションといった潮流のなか、大阪がどのような状況にあり、いかなる問題を抱えているのか、今後どのようにすれば新たな未来を切り拓くことができるのかを、受講生それぞれが考える場として提供します。単に授業を聞くのみならず、新聞、本、テレビ、その他各種メディアをフルに活用して、こうした大きな変化に柔軟に対応できるような知力、実践力を培えるようにしてください。

また、学外講師による評価方法の工夫、双方向授業などの条件を考慮しなければならないので、受講者数は 100 名程度に制限します。

● 教材

教科書：使用しません。

参考書：授業で適宜紹介します。

プリント：授業で適宜配布します。

*氏名に下線が付けられている講師は学外社会人。

*各授業を担当するファシリテーター：飯吉弘子、井上徹、今井大喜、嘉名光市、小伊藤亜希子、鈴木洋太郎、林朝茂、福島祥行、八ッ橋知幸、横山久代